

ワクチン 情報報告書

インフルエンザ(インフル)ワクチン(不活化または組み換え): 知っておくべきこと

ワクチン 情報 報告書の大半は、スペイン語と他の言語にてご利用できます。
www.immunize.org/vis を御参照ください。

Hojas de información sobre vacunas están disponibles en español y en muchos otros idiomas. Visite www.immunize.org/vis

1. なぜ予防接種を受けるのですか?

インフルエンザワクチンはインフルエンザ(インフル)を予防することができます。

インフルエンザは、毎年、通常は10月から5月の間に米国全土に広がる伝染病です。誰もがインフルエンザに罹患する可能性はありますが、一部の方にとっては大変危険です。乳幼児、子供、65歳以上の人、妊娠中の人、および特定の健康状態の人、また免疫システムが弱っている方々は合併症にかかるリスクが大変高くなります。

肺炎、気管支炎、副鼻腔感染症、および耳感染症は、インフルエンザ関連の合併症の例です。心臓病、癌、糖尿病などの病状がある場合、インフルエンザはそれを悪化させる可能性があります。

インフルエンザは、発熱や悪寒、のどの痛み、筋肉痛、疲労、咳、頭痛、鼻水や鼻づまりを引き起こす可能性があります。一部の人々は嘔吐や下痢を患うかもしれませんが、これは大人よりも子供でより一般的です。

米国では、例年で **何千人もの人々がインフルエンザで死亡**し、さらに多くの人々が入院しています。インフルエンザワクチンは、毎年何百万もの病気やインフルエンザ関連の医師への訪問を防ぎます。

2. インフルエンザ ワクチン

CDCは、6ヶ月以上のすべての方がインフルエンザシーズンごとに予防接種を受けることを推奨しています。 **6ヶ月から8歳までの**子供は、1回のインフルエンザシーズン中に2回の投与が必要な場合があります。 **他の誰もが**インフルエンザシーズンごとに1回だけ服用する必要があります。

ワクチン接種後、予防の免疫が発達するまでに約2週間かかります。

インフルエンザウイルスは数多く存在し、常に変化しています。毎年、新しいインフルエンザワクチンは、次のインフルエンザシーズンに病気を引き起こす可能性が高いと考えられるインフルエンザウイルスから保護するために作られています。

ワクチンがこれらのウイルスと完全に一致しない場合でも、ある程度の予防を提供する可能性があります。

インフルエンザワクチンは**インフルエンザを引き起こしません**。

インフルエンザワクチンは、他のワクチンと同時に接種が可能です。

3. 医療提供者に相談する

予防接種提供者にその旨を通知してください。

- **インフルエンザワクチンの前回の投与後にアレルギー反応を起こした、または重篤で生命を脅かすアレルギーがある**
- **ギランバレー症候群**(「GBS」とも呼ばれる)を患ったことがある

場合によっては、医療提供者は、先の来院までインフルエンザ予防接種を延期することを決定するかもしれません。

インフルエンザワクチンは、妊娠中にいつでも投与することができます。インフルエンザの季節に妊娠している、または妊娠する予定の方は不活化インフルエンザワクチンを接種することを推奨します。

風邪などの軽度の病気の方は予防接種を受けても問題ありません。中等度または重度の病気の方は通常回復するまで待ってから、インフルエンザワクチンの予防接種を行う必要があります。



さらに詳しい情報は、医療提供者に問い合わせてください。

4. ワクチン反応のリスク

- 痛み、発赤、および注射を受けた場所の腫れ、発熱、筋肉痛、頭痛がインフルエンザワクチン接種後におこる可能性があります。
- 不活化インフルエンザワクチン(インフルエンザの予防接種)後にギランバレー症候群(GBS)にかかる若干のリスク上昇の可能性があります。

肺炎球菌ワクチン(PCV13)および/またはDTaP ワクチンと同時にインフルエンザの予防接種を受けた幼児は、発熱によって引き起こされる脳痙攣の発作を起こす可能性がわずかに高いかもしれません。インフルエンザワクチンの接種を受ける子供が以前に発作を起こしたことがあるかどうかを医療提供者にお伝えください。

時として、ワクチン接種を含む医療処置の後に失神することがあります。めまいを感じたり、視覚の変化や耳鳴りを感じたりした場合は医療提供者にお伝えください。

他の薬品と同様に、ワクチンが重度のアレルギー反応、他の重篤な傷害傷、または死を引き起こす可能性は非常にまれです。

5. 深刻な問題が発生した場合はどうすればよいですか?

アレルギー反応は、ワクチンの接種を受けた方が診療所を出た後に起こることがあります。重度のアレルギー反応(じんましん、顔や喉の腫れ、呼吸困難、急速な心拍、めまい、または衰弱)がみられる場合には、**9-1-1**に電話し、その方を最寄りの病院にお連れ下さい。

その他の懸念事項については、医療提供者にお電話をおかけください。

副作用は ワクチン有害事象報告システム (VAERS)に報告する必要があります。あなたの医療提供者は通常、このレポートを提出しますが、あなた自身で行うこともできます。

www.vaers.hhs.gov のVAERSウェブサイトをご覧ください。ただか、**1-800-822-7967** までお電話ください。VAERSは反応を報告するのみの機関であり、VAERS のスタッフは医学的アドバイスは提供いたしません。

6. 全米ワクチン被害補償プログラム

全米ワクチン被害補償プログラム(VICP)は、特定のワクチンによって負傷した可能性のある方々を補償するために作成された連邦プログラムです。ワクチン接種による傷害または死亡の申し立てに関する請求には提出期限があり、最短で2年になる場合があります。

www.hrsa.gov/vaccinecompensation のVICPウェブサイトにアクセスするか、**1-800-338-2382** にお電話し、プログラムと請求の提出についてお調べください。

7. もっと詳しく知るには?

- 医療提供者にお問い合わせください。
- お住まいの地域または州の保健局にお電話ください。
- 食品医薬品局(FDA) のウェブサイトでワクチンの添付文書と追加情報をご覧ください。
www.fda.gov/vaccines-blood-biologics/vaccines
- 疾病管理予防センター(CDC)にお問い合わせください。
- **1-800-232-4636 (1-800-CDC-INFO)** または
- www.cdc.gov/flu のウェブサイトをご覧ください。

